

# 論文内容要旨

The influence of coping types on post-traumatic growth in patients with primary breast cancer

(原発性乳がん患者の心的外傷後成長に対するコーピングタイプの影響)

Japanese Journal of Clinical Oncology, 2020, in press.

主指導教員：岡村 仁 教授

(医系科学研究科 精神機能制御科学)

副指導教員：宮下 美香 教授

(医系科学研究科 老年・がん看護開発学)

副指導教員：花岡 秀明 教授

(医系科学研究科 老年・地域作業機能制御学)

藤本 智美

(医歯薬保健学研究科 保健学専攻)

## 【背景】

乳がんと診断された女性に与える身体的・精神的なインパクトは大きく、これまでも乳がんによる精神的健康への否定的な側面については、さまざまな先行研究がなされてきた。しかし近年では、ストレスフルな出来事による否定的な側面だけでなく、肯定的な側面として心的外傷後成長(post-traumatic growth: PTG)への関心が高まっている。一方、ストレスコーピングに関する研究では近年新たにポジティブ心理学の分野から、Proactive Coping Theory という理論が提唱されている。この理論は、ストレスとなる出来事との時間的な見通しにより、その出来事に対する認知的評価や対処が変化するととらえ、4種類のコーピング(Reactive coping、Anticipatory coping、Proactive coping、Preventive coping)に分類されている。この理論に基づき Proactive Coping Inventory が作成されているが、わが国におけるプロアクティブ・コーピングに関する研究は、まだ少ない。そこで本研究では、乳がん患者の PTG がプロアクティブ・コーピングおよび精神的健康とどのような関連があるのかを明らかにすることを目的とした。

## 【方法】

乳がんの診断を受け外来通院している患者で、2017年12月～2018年7月までの7か月間、連続的にサンプリングを行った。選択基準は、2010年4月1日～2018年3月31日までに初めて乳がんと診断された20歳～70歳の患者である。調査項目は年齢や婚姻状況、診断からの期間や診断時のステージなどの基本属性と心的外傷後成長尺度日本語版(Posttraumatic Growth Inventory-Japanese: PTGI-J)、Proactive Coping Inventory 日本語版(PCI-J)、そして精神的健康状態は General Health Questionnaire(GHQ)の日本語版を用いた。解析方法は、PTG と GHQ・PCI 間の相関係数、診断からの期間および診断時のステージと PTG・GHQ・PCI の各下位尺度間の相関係数を算出した。次に PTGI-J 総得点と基本属性・PCI・GHQ の関連を単回帰分析により検討し、PTGI-J 総得点・各下位尺度得点を従属変数、単回帰分析で関連の見られた変数を独立変数として強制投入法による重回帰分析を行った。

## 【結果】

120名に調査票を配布した。そのうち80名から回収が得られ(回収率66.7%)、80名すべてを解析対象とした(有効回答率100%)。

各項目間の相関では、PTGI-J 総得点と社会的活動障害およびうつ傾向の間に有意な負の相関を、PTGI-J 総得点と PCI-J のすべてのサブスケールとの間に有意な正の相関を認めた。診断時のステージと各下位尺度間では、PCI-J の能動的コーピング、内省的コーピング、計画的コーピングとの間で有意な負の相関を認めた。

重回帰分析の結果、乳がん患者の PTG に影響する要因として、能動的コーピング、感情面でのサポート模索、回避的コーピングが抽出され、モデル全体としては分散の 37.8%が説明された。

## 【考察】

重回帰分析の結果、PTG に影響する要因として能動的コーピング・感情面でのサポート模索・回避的コーピングが抽出された。乳がんという病と向き合い、それを否定的に捉えずこれまでの

人生観や健康観、自己を取り巻く世界に対するとらえ方を柔軟に変容し、自分に起きた出来事の結果に対して責任を負うという信念が能動的コーピングを高め、PTG に影響したと考える。また、ソーシャルサポートと PTG に関連があることは先行研究でも示されているが、本研究でも感情面でのサポート模索が抽出され、先行研究の結果と一致していた。人がストレスに対処する際には、信頼できる人との関係の中で安心して悩みを話せることが重要であり、そのような感情面でのサポート模索を行うことで PTG の上昇が期待できる。回避的コーピングについては、ストレス反応や負の感情を増加させると言われている一方で、回避的コーピングの用い方によってはストレス低減に影響をおよぼすことが報告されている。PTG が生起するメカニズムとして、ストレスフルな出来事の直後には、侵入的熟考・反芻というプロセスがあり、それによる苦痛を緩和するために気晴らしや人と話すという対処をする中で PTG が生起するとされており、PTG のプロセスには一時的な回避的コーピングも必要と考えられる。以上のことを踏まえて、乳がんと診断されたことによって生じた長期的な葛藤に対しては能動的コーピングを用いて問題と向き合いつつ、治療過程の中で生じる日々のストレスには一時的な回避的コーピングを用いるよう支援することが、精神的健康の悪化を防ぎながら PTG を高めていくことにつながることを示唆された。そして、支援の際には情緒的支援が得られるような環境を整えることが重要であることが明らかとなった。